

2017.01.20

学習支援空間としてのラーニングコモンズ ～千葉大学アカデミック・リンク・ センターの活動から～



1. アカデミック・リンクのコンセプトと学習空間
2. ラーニングコモンズにおける学習の人的支援

姉川 雄大

千葉大学アカデミック・リンク・センター

Academic Link

Chiba University
Academic Link Center

1. アカデミック・リンクのコンセプト 「考える学生の創造」 と学習空間

アカデミック・リンクによる千葉大学の教育改革

目的:「考える学生の創造」

「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ学生の育成

アカデミック・リンク

「学習とコンテンツの近接による能動的学習の促進」

コンテンツ構築・提供、情報基盤、人的支援、学生のニーズに適した学習空間の統合・連携による学習・教育の革新

アクティブ・ラーニング・スペース

コンテンツ・ラボ

ティーチング・ハブ

千葉大学中期目標・計画<教育方法改善への取組、アクティブ・ラーニングの重視>

大学に対する社会的要請

- 知識基盤社会、学習社会における市民の育成
- 高等教育のグローバル化の中での質の維持・向上
- 職業人としての基礎能力、創造的人材の育成

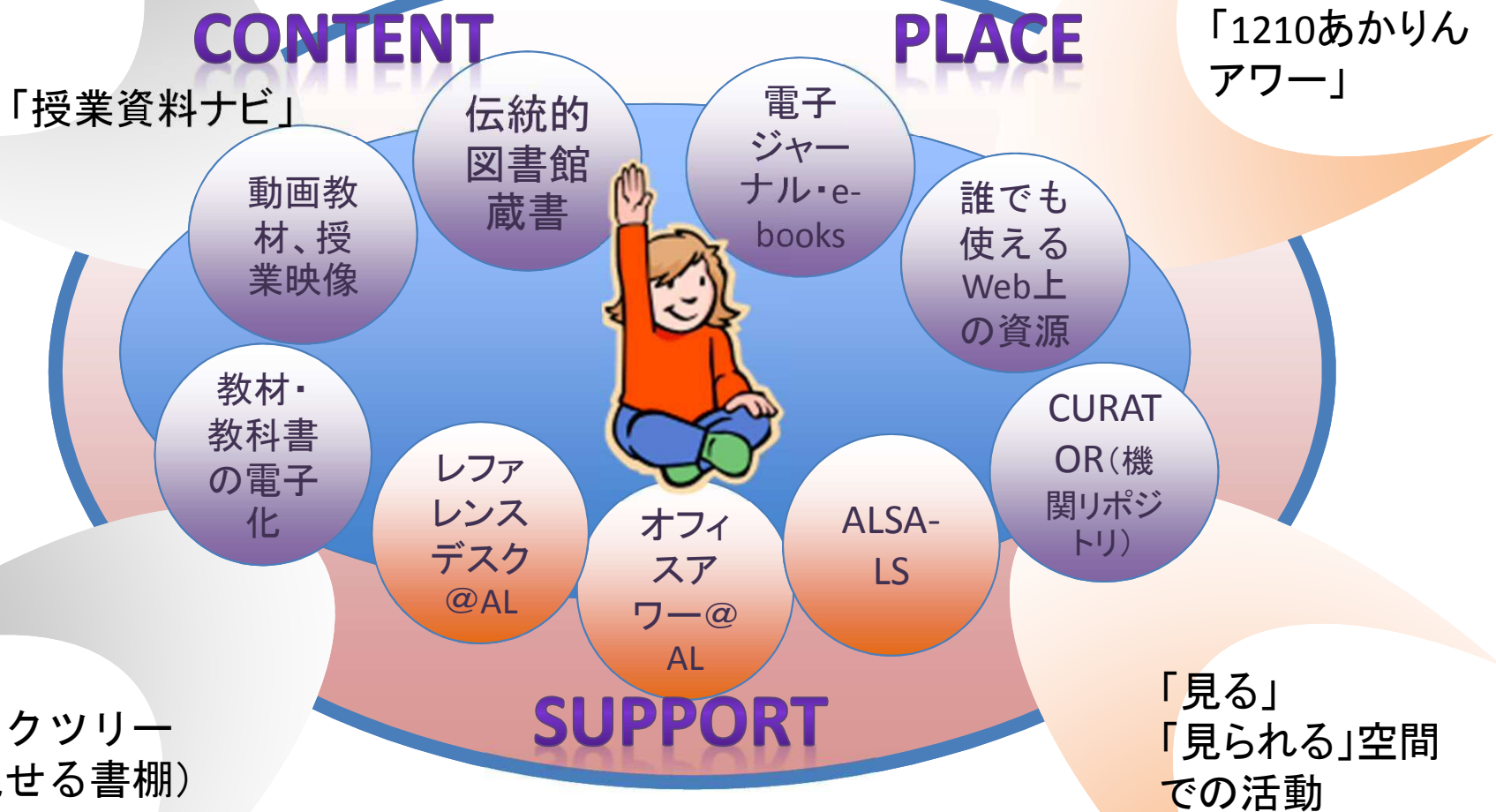
「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日、中教審答申)

学生のニーズ

- 自由に使える学習スペース
- 文章作成力、ディスカッション能力、問題解決能力
- 英語によるコミュニケーション能力

「千葉大学の教育・研究に対する意識・満足度調査報告書」(平成21年度)

学生からみたアカデミック・リンクのイメージ



「学び」に導く刺激にあふれた場所，学びの基盤としてのコンテンツ，人的サポート

「アカデミック・リンク」とは

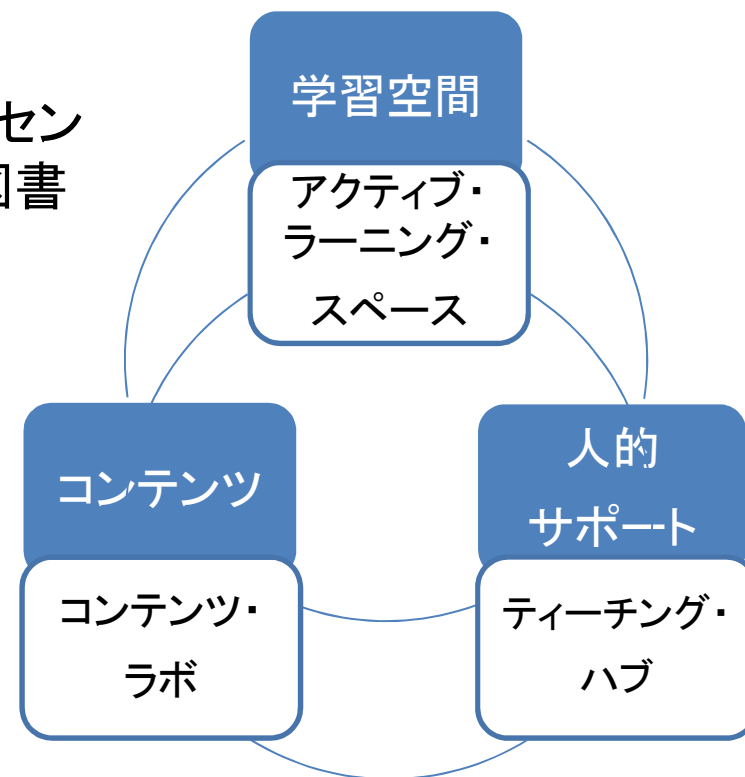
■ コンセプト

図書館機能をベースとした大学の新しい学習環境の提案

研究開発機能を担う「アカデミック・リンク・センター」と実際にサービスを提供する「附属図書館」が中核となって推進

2011年4月1日
センター設置

2012年3月16日
図書館リニューアルオープン



研究開発組織としての アカデミック・リンク・センター

- 目的: アカデミック・リンクの具体化
 - ・ アクティブ・ラーニング・スペース, コンテンツ・ラボ, ティーチング・ハブの運営
 - ・ 各種プロジェクトの展開
- 組織構成
 - ・ 研究開発部門
 - ・ アクティブラーニング推進部門
 - ・ 共同研究部門
- 構成メンバー
 - ・ 学内兼務教員: 3名
 - ・ 特任助教: 4名
 - ・ 客員教授・客員研究員・外部機関共同研究員: 3名
 - ・ 図書館職員: 17名(図書系: 14名)

アカデミック・リンクの運用

学習空間の 整備と活用

- 新しい学習空間の整備
- 1210あかりんアワー
- 学習空間・情報利用行動の調査

人的サポート の整備と活用

- 学習相談デスク
- 図書館職員による学習支援
- 学習環境整備への学生参加

コンテンツの 整備と活用

- 授業資料ナビによる授業との連携
- Learning Management System (LMS)を用いた学習支援
- 授業録画／授業紹介動画の試行的実施

学習空間の整備と活用

学生の多様な学習スタイルに応えられる学習空間

新しい学習空間の整備

- ラーニング・コモンズ 機能と伝統的図書館機能
- ブックツリー
- プレゼンテーションスペース

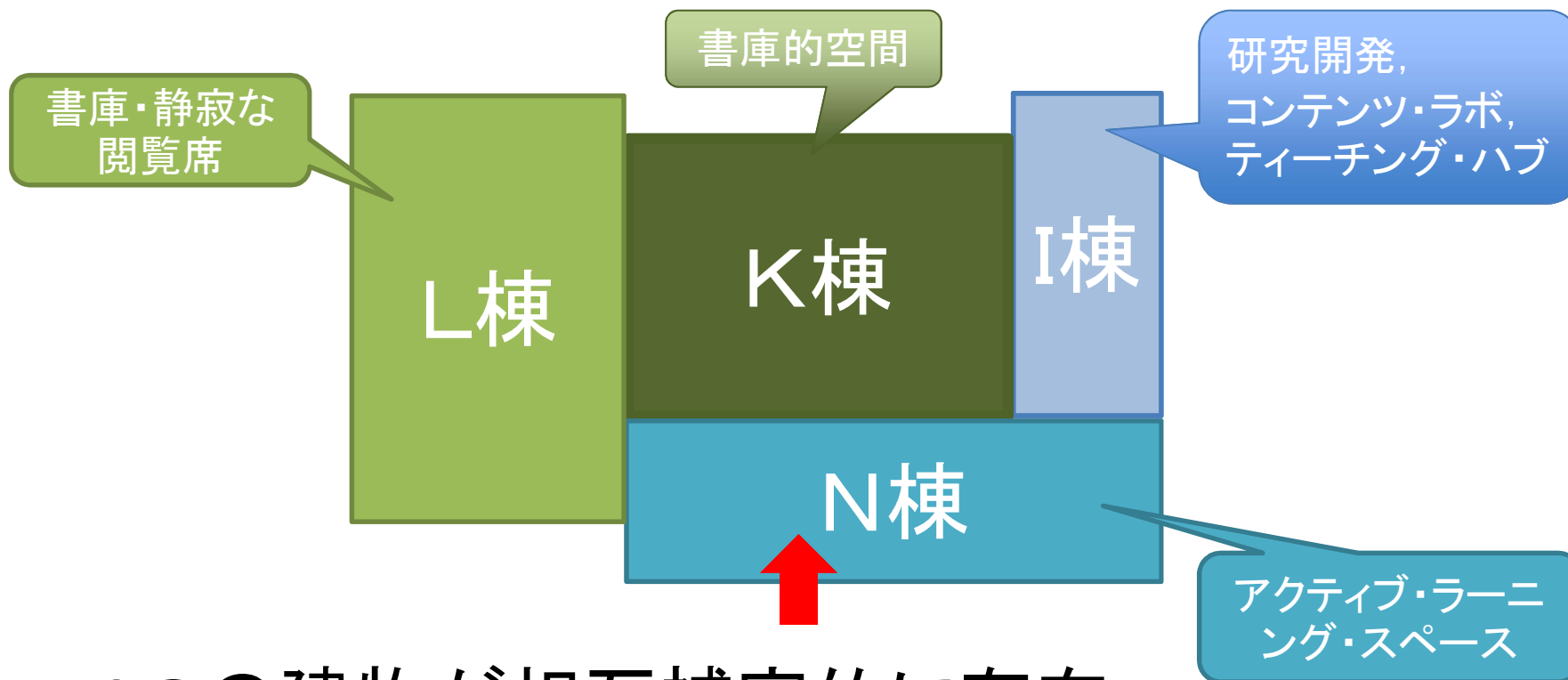
1210あかりんアワー

空間設計の特徴

- 開放性, 透明性の高い空間
「見る」「見られる」環境
- 空間の機能分化
静寂空間と討議空間
- 自由度の高さ
N棟: 机, 椅子, ホワイトボードを自由に移動可能
- 多様性の確保
PC席も1人使用のみを想定しない

新しい学習空間の整備

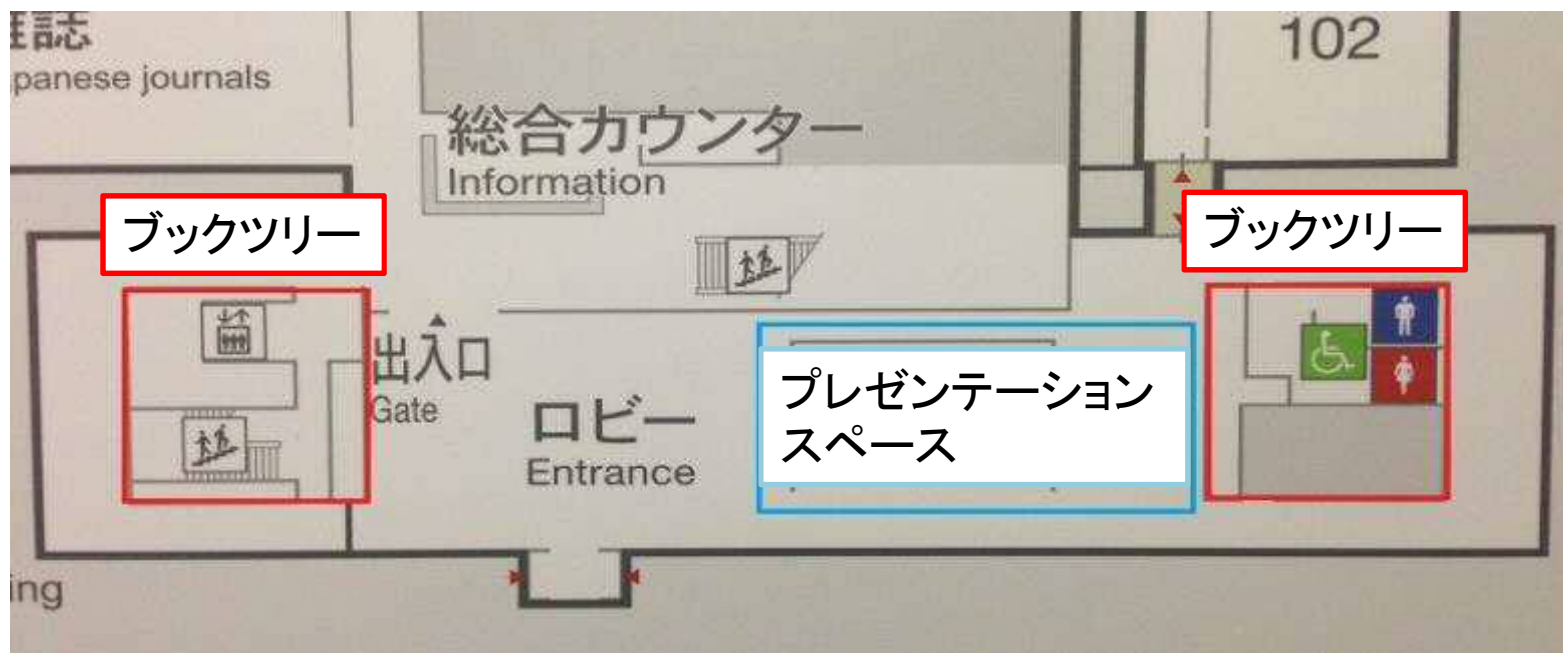
千葉大学附属図書館本館（西千葉キャンパス）



4つの建物が相互補完的に存在

- ラーニングコモンズ機能 (N棟)
- 伝統的図書館機能 (K棟, L棟)

ブックツリーとプレゼンテーションスペース



ブックツリー

- N棟を支える2本の柱
- 見せる書架
- 展示スペースとしても利用

プレゼンテーションスペース

- 図書館ゲート外のホール
- 授業や学内各種イベントでの利用

組み合わせた利用例

- ブックツリーと図書館内展示ケースで写真展示、関連するテーマでの「1210あかりんアワー」
- ブックツリーでポスターセッション、プレゼンテーション・スペースでの講評（授業）
- 3階ブックツリーで本の展示（メイン）しながら、1階ブックツリーを広報スペースとして利用。プレゼンテーション・スペースでトークイベントを2回開催

1210あかりんアワー

■ 目的

- ・ 学生と教職員の距離を縮める
- ・ 学びの視野を広げる

■ 実施状況

- ・ 2012年4月スタート
- ・ 学生向けショートセミナー
- ・ 授業期間中の火・金、昼休みの12:10-12:40
- ・ プレゼンテーション・スペース
- ・ 事前申し込み不要、出入り自由

1210あかりんアワー
@附属図書館N棟 1階
プレゼンテーションスペース
12:10-12:40



2016年11月スケジュール

11/1(火) 【中止】	教員が研究の楽しさを語る 第140回 矢口貴志先生(真菌医学研究センター) 「耐熱性カビの分類と食品微生物学への応用」
11/8(火)	教員が研究の楽しさを語る 第141回 坂本一之先生(融合科学研究科) 「ナノの世界で電子磁石を操る」
11/11(金)	横田明美先生(法政経学部) × Tak.さん(『アウトライナー実践入門』著者) 「論文をシェイクする ～アウトライナーのすすめ～」
11/15(火)	教員が研究の楽しさを語る 第142回 鈴木規道先生(予防医学センター) 「旅に出ると研究がしたくなる? ～健康なまちと空間デザイン～」
11/18(金)	ALSAカフェ 第21回 藤田貴士さん(人文社会科学研究院院生/ALSA-LS) 「卒論(年度末課題)に向けて今からできること」
11/22(火)	教員が研究の楽しさを語る 第143回 大原祐治先生(文学部) 「『読む』とはどういうことか? ——文学研究の領分」
11/25(金)	アジア経済研究所図書館との相互利用協定提携企画 今井宏平研究員(アジア経済研究所地域研究センター) 「複雑怪奇なトルコ外交を理解する」
11/29(火)	教員が研究の楽しさを語る 第144回 百原新先生(園芸学研究科) 「太古からの手紙—植物化石が語る昔の環境」

1210あかりんアワー:内容

■ 火曜日

- 教員が研究の楽しさを語る

■ 金曜日

- 働くオトナが学生に勧める1冊の本
- ALSAカフェ
- 外国に暮らす etc.

1210あかりんアワー:特徴

特徴

- 幅広い学部・部局、年代の教職員が登壇

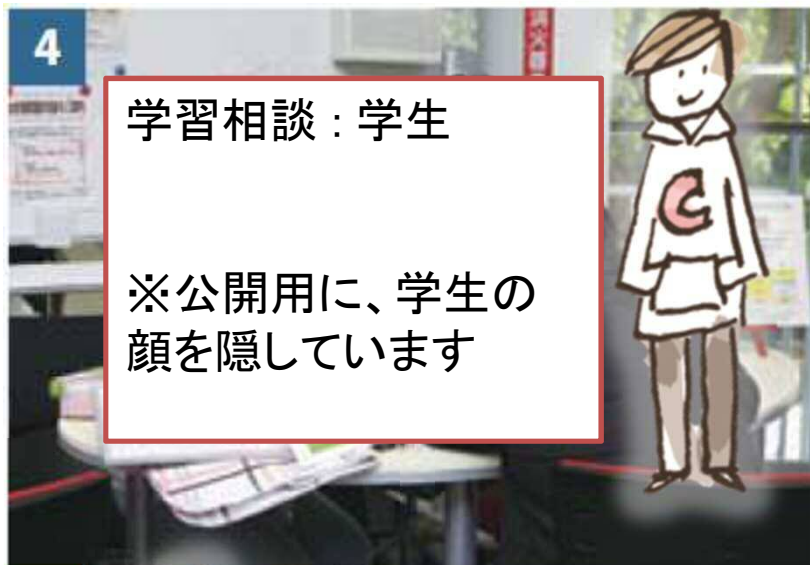
成果

- 専攻分野に限らない学問を見る
- 千葉大学の「ショウケース」
- 学生や職員のプレゼンテーションの機会

2. アカデミック・リンク・センターによる学習支援の仕組みと取り組み

学生，図書館員，教員によるハイブリッドな人的サポート

学習支援デスク



教員、図書館員、
学生による
サポート

N棟2階



オフィスアワー

担当教員

- アカデミック・リンク・センター教員
- 学生相談 (2012年10月～)
- 教職相談 (2012年10月～)



Teacher



Librarian

レファレンスデスク

運用

- 平日 13:00-16:00
- 図書系常勤職員
- 日誌記入、質問受け付け記録による事例の共有
- 振り返り会・研修 (半期に2～3度)

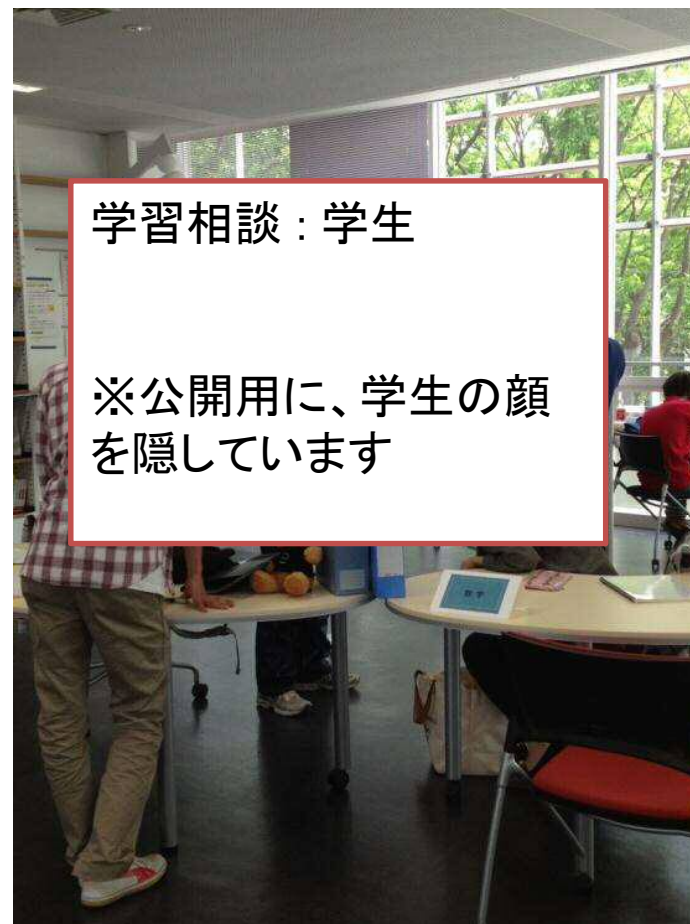


ALSA-LSによる分野別学習相談

Academic Link Student Assistant – Learning Support
ALSA-LS : 学習支援担当SA

目的

- 補習教育的学習相談のみでなく自律的学習者としての成長の支援を目的とする
- 図書館施設内で実施する特徴を活かした「コンテンツ」を活用した学習支援を行う



ALSA-LS

アカデミック・リンク学習支援担当スチューデント・アシスタント

Academic Link Student

Assistant - Learning Support

補習教育的学習相談のみでなく自律的学習者としての成長の支援を目的とする

- ① 答えを教えるのではなく自分で考えることができるようになるための支援を行うこと
- ② 授業を尊重した対応をすること

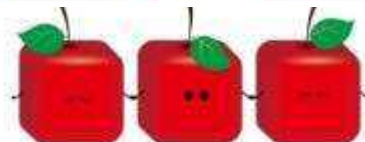
N棟2階 学習支援デスク 2013年度前期

分野別 学習相談

各専門分野の院生（ALSA-LS）が学習を支援します。
授業でよくわからないこと、先輩にきいてみよう！

2016年10月～	月	火	水	木	金
3 12:50-14:20	文系 化学	文系 物理	数学 化学	物理 化学	数学 文系
4 14:30-16:00	文系 化学	数学 物理	数学 化学	物理 化学	数学 文系
5 16:10-17:40	数学 物理	数学 化学	数学 化学	物理 化学	数学 化学
6 17:50-19:20	数学 物理	数学 化学	数学 文系	物理 化学	数学 化学

「文系学習相談」はレポートの書き方、
大学での勉強の仕方などです。



問い合わせ先：
アカデミック・リンク・センター
(alc-info@chiba-u.jp)

ALSA-LSの体制と運営

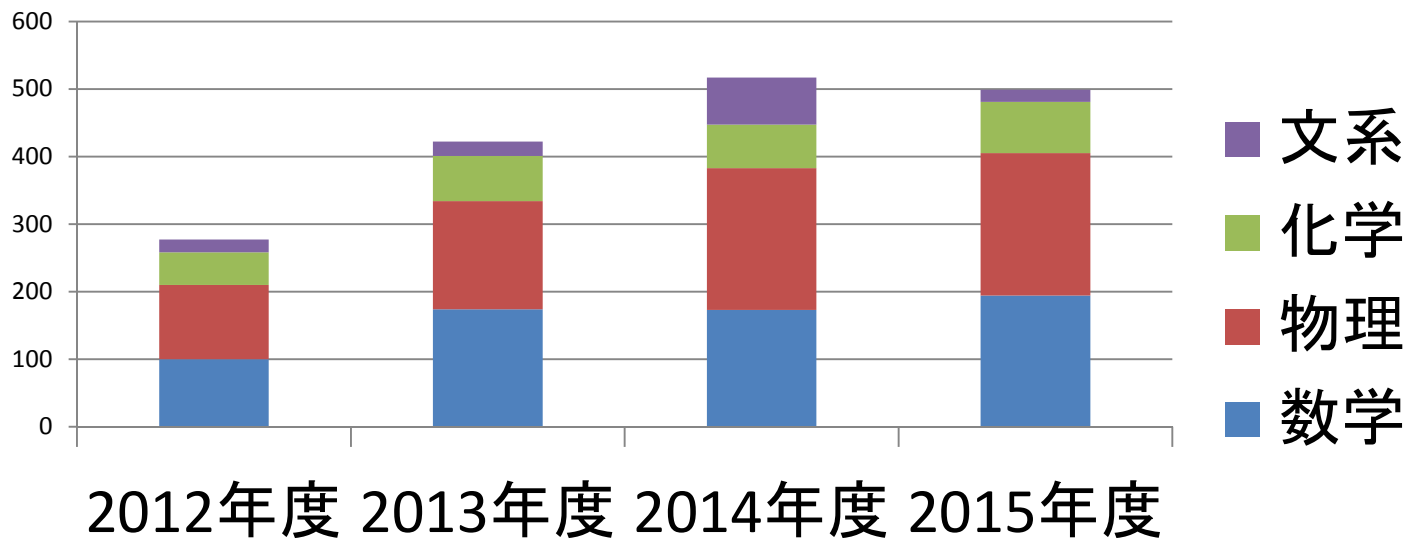
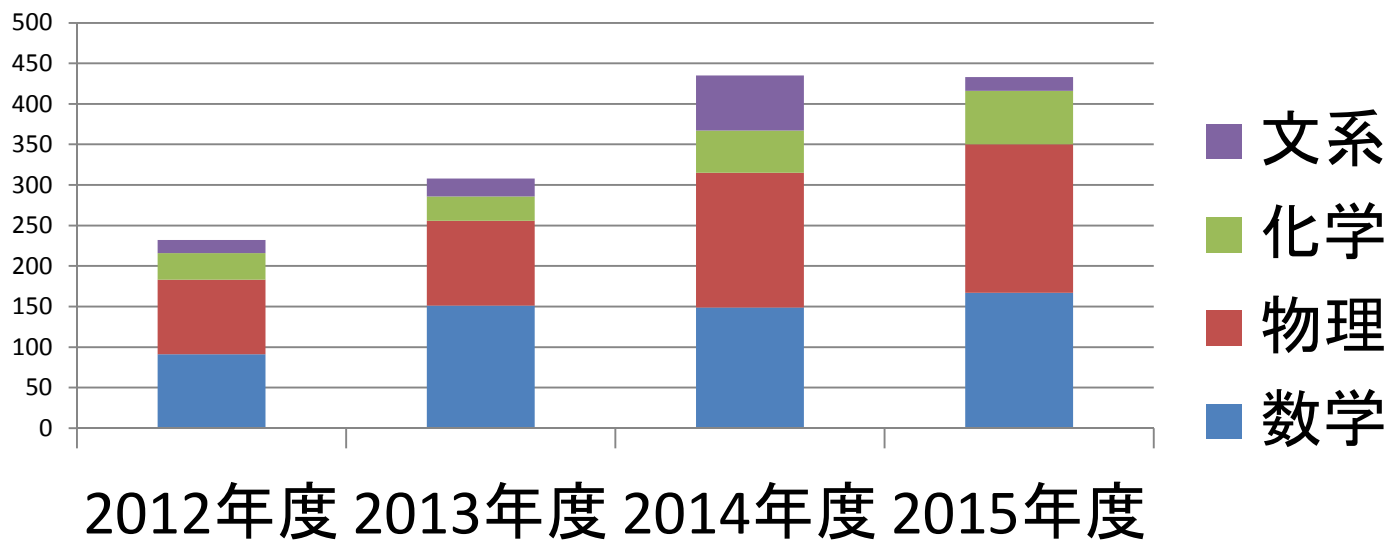
- 各専門分野の院生 2人で1コマ
(1コマで1~2の専門分野に対応)
- 院生スタッフは公募 (試行期は教員推薦)
計 23名 (時期により増減)
数学4人・物理5人・化学6人・文系6人
- 授業時間に合わせた時間割形式での開設
- 研修・「振り返り会」を実施(年6回)
 - 学習支援者としての気づきやシステムの課題と改善を全体で共有する

学習相談件数・人数

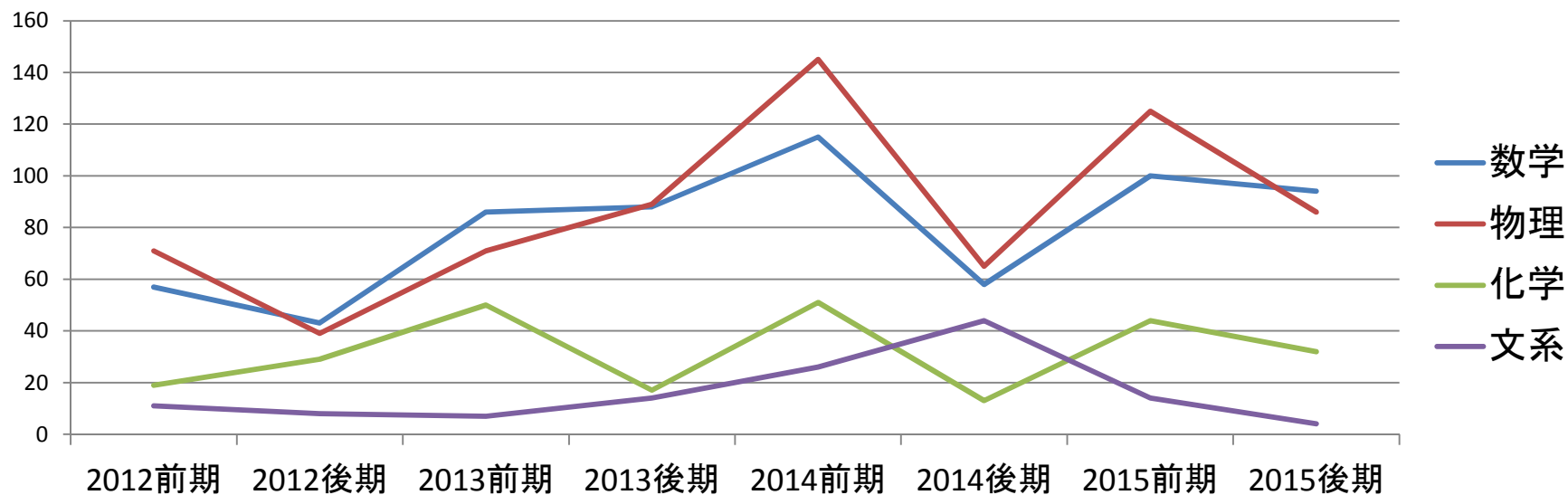
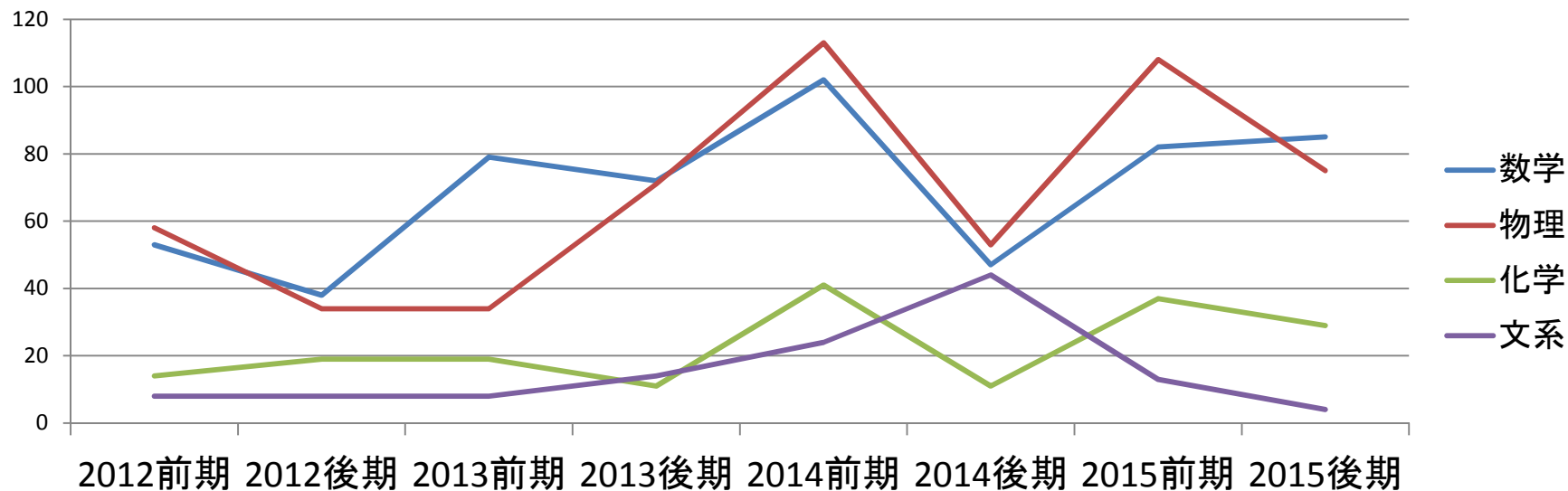
相談件数	数学	物理	化学	文系	合計
2012年度	91	92	33	16	232
2013年度	151	105	30	22	308
2014年度	149	166	52	68	435
2015年度	167	183	66	17	433

相談人数	数学	物理	化学	文系	合計
2012年度	100	110	48	19	277
2013年度	174	160	67	21	422
2014年度	173	210	64	70	517
2015年度	194	211	76	18	499

学習相談件数・人数

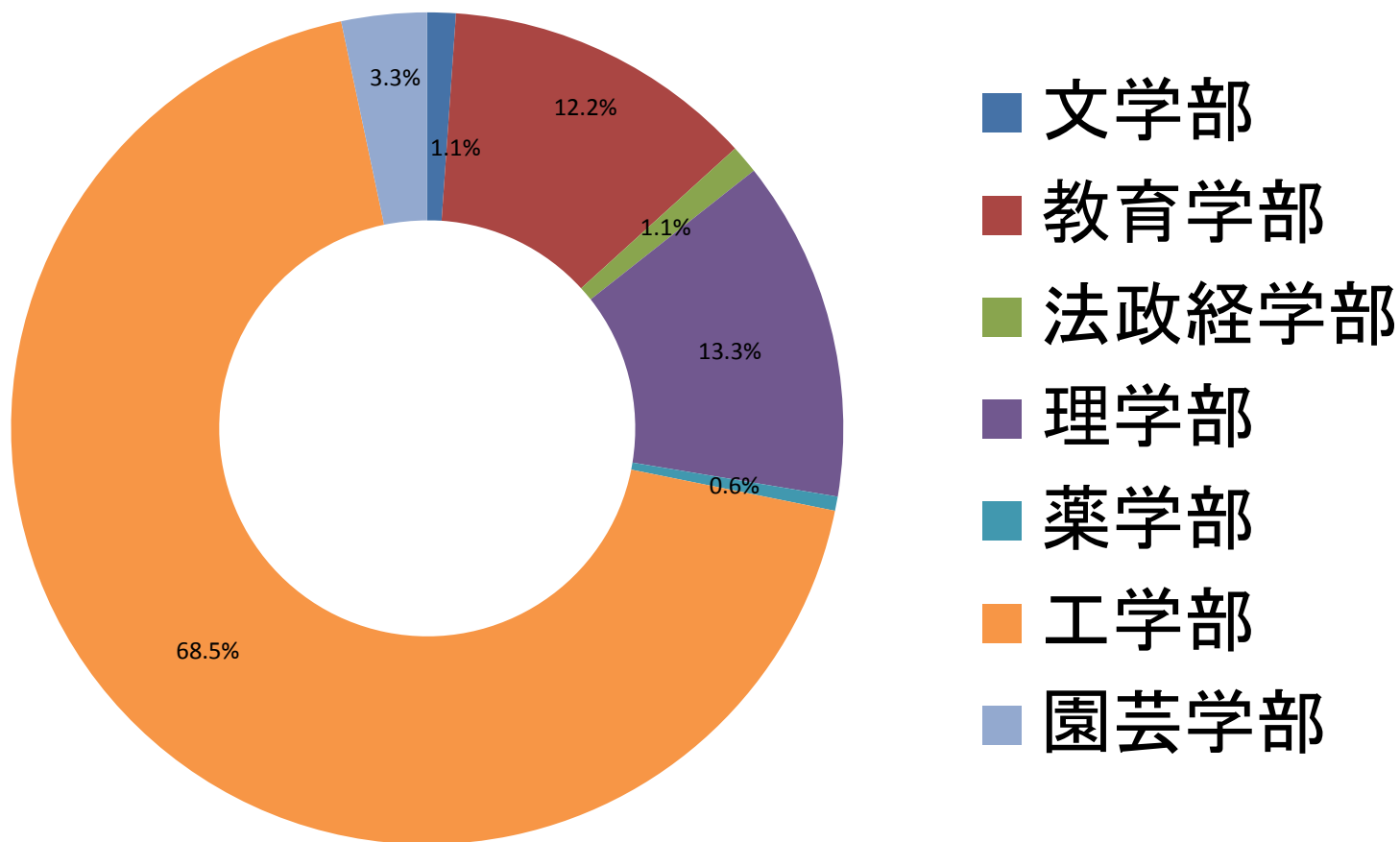


学習相談件数・人数



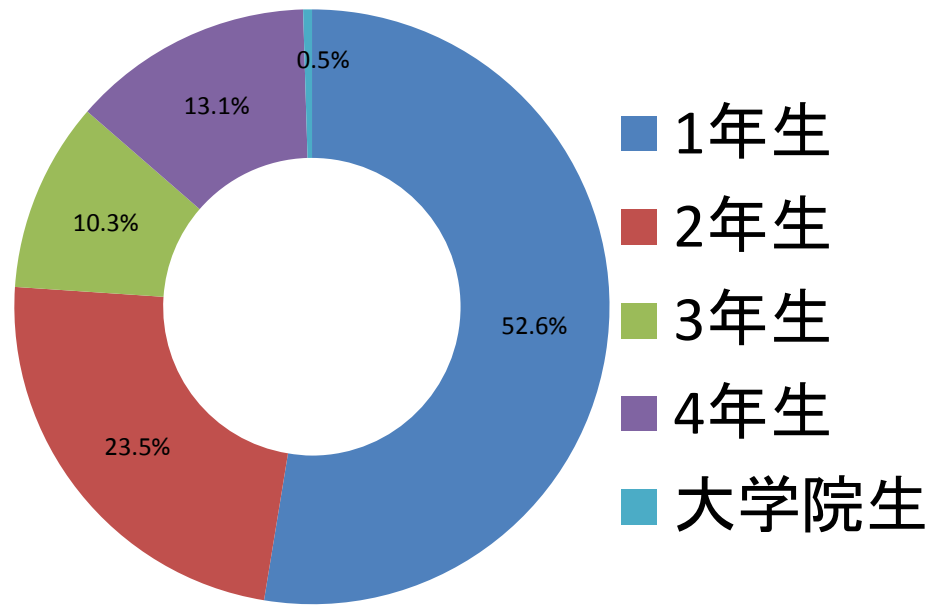
相談者構成比

2015年度後期 学部別件数

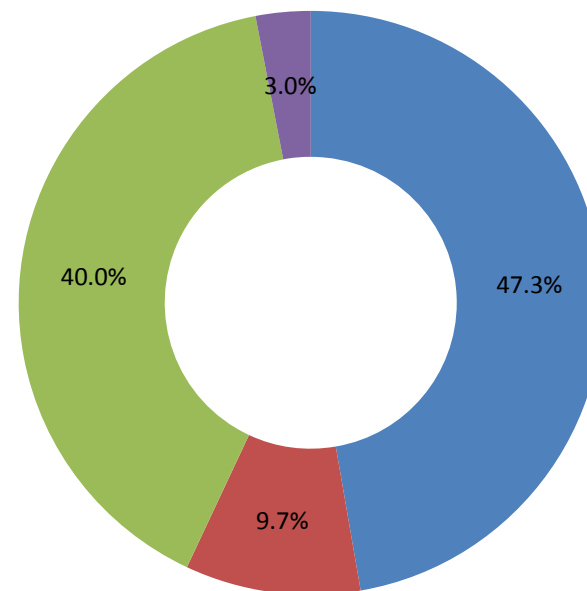


相談者構成比

2015年度前期 学年別



2015年度後期 学年別

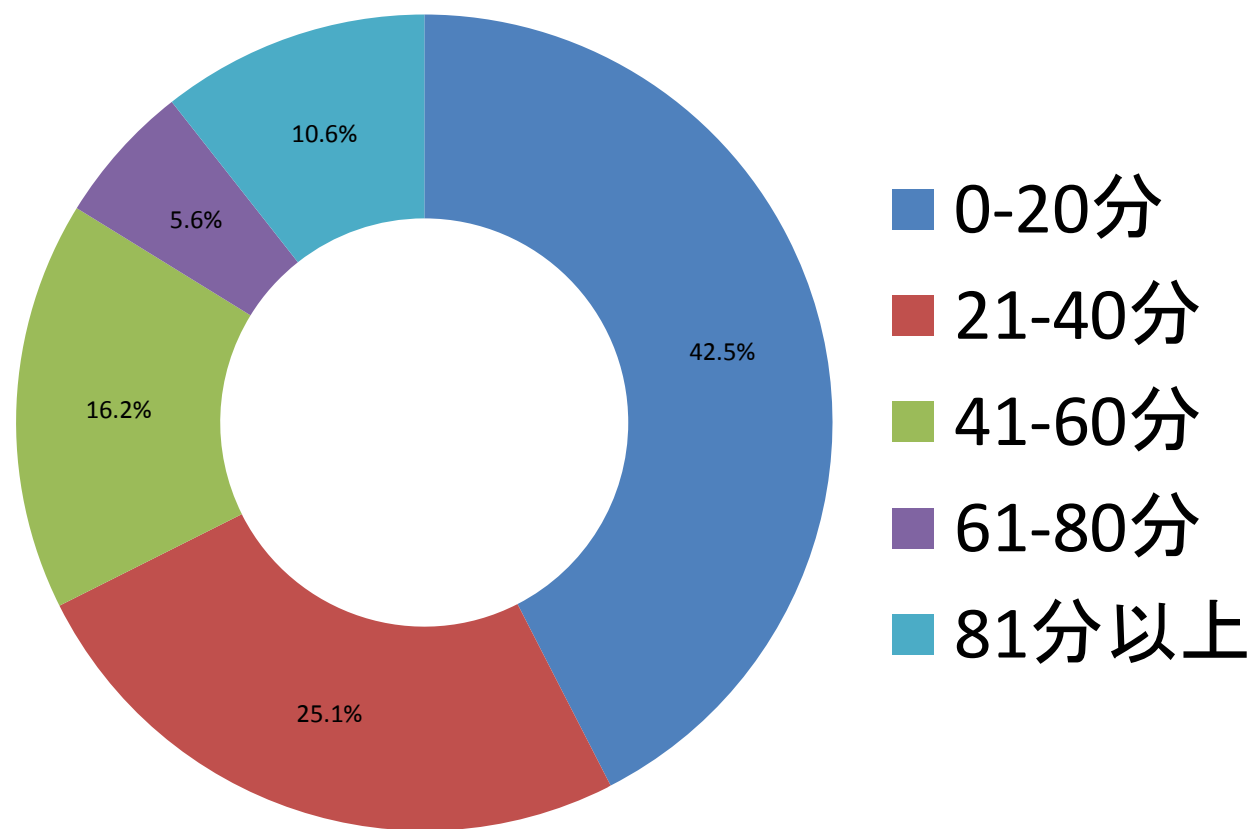


利用者の声（抜粋、試行時～）

利用しようと思った理由	利用して良かったこと
学内で勉強を教えてくれる所がなかったので。	親切に最後まで教えてくれました。
たまたま友達が相談していたから。	すごく丁寧に教えていただき、授業や教員に直接きくよりわかりやすかったし、聞きやすかった。
電磁気学と統計力学で苦労しているからどんなサービスか見てみたかったから。	やる気が出た。後々楽しくなるってことがわかってよかった。
わざわざ研究室に行かなくてすむから。	分からないことが解決できたこと。
線形代数で悩んでいたときに、ALSAを知ったから。	1の質問で10の情報が入ってきた。
解けない問題があった。	真摯に対応してもらった。
相談しやすそう。	分からないことが分かるようになった。
授業でわからないことがあったから。	わかりやすかった。
相談しやすそう	分かるようになった。
テスト対策	解法のめどがたった。

相談時間

2015年度後期 相談時間



ALSAによる振り返り

- 初期は中間(6月)と最終(8月)(現在は各期1回最終のみ)
- ALSA、図書館員、教員、学生相談員
- 成功例・失敗例や改善点などの共有
 - 時間割や体制について
 - 困ったこと、その解決法
 - うまくいったこと、よかったこと
- 参考図書、備品等の充実

SAによる学習相談の改善

- 専門分野の配置・時間割・時間帯
 - 記録や対応方式、広報
 - 様々な学習相談者への対応
 - 自主的な学習姿勢がなく答えのみ求める学生にどう対応するか
 - 専門外の質問や、高度な専門性を要しすぐに解答できない質問にどう対応するか・・・など
- ・・・「振り返り会」のディスカッションから

「振り返り会」で話し合ったこと

- 専門が「異なる」／「同じ」組み合わせ
- 学生の利用のしやすさ(午前は来ない、時間割に合わせる、5限後に実施、など)
- 回答困難な質問⇒ALSAの他メンバーに
- 院試問題などの難問、求められるレベル⇒「自分で考えることができるようにすることが目的なので、解答を教えられる必要はない、専門分野をすべてそろえる必要はない」

相談対応の問題点

- ① 相談内容と担当分野のコマのミスマッチ
- ② 高度な内容や専門外の質問への対応
- ③ 授業に出てノートを真面目にとっているにもかかわらず「分からない」、授業の何もかもが分からない
- ④ 「特定の問題を解けないという相談」でも実は「本当に分かっていない部分は違うところに」、何が分かっていないかが分かっていない

ALSAの課題解決パターン

① 相談内容と担当分野

- 「来てみてからこちらで判断して協力体制をつくっている」⇒他の担当者のコマを紹介
- 「物理や化学でも現象を記述する数学の部分への対応は数学担当者をお願いした」⇒混合コマの場合にはその場で分担
- 「数学のコマに物理の質問を持ってきたが明日レポート・次の時間が試験」⇒「分からない用語を説明させながらこちらで論理的に説明できれば相談者も納得」

ALSAの課題解決パターン

② 高度な内容や専門外の質問

- 「他のALSAに聞くなど総動員」「専門の近いALSAを紹介してMLで対応を依頼」
- 「家に持ち帰って解いて次の回にまた来てもらいました」
- 「教えるというより一緒に取り組むかたち」
- 「一緒に教科書を見返して確認・復習して回答を導く、そうやって明らかに論理的におかしいところが出てきたら、また一緒に改善」

ALSAの課題解決パターン

③「全然、何もかも分かりません」

- 「今はどんな風にやっているのかを聞いてつまづきのポイントを探りながら」「一問解いてみよう」「少し簡単な問題や限定された場合の問題などをやってもらって、どう考えているのかを見抜く」「自分は話さず相談者に考えさせる時間が長い」
- 指針を示して「これからがんばろう」
- 一緒に教科書を読みながらディスカッション
- 「考え方の切り替えが必要な話は時間がかかるが、一度で説明をしないと意味がない」

ALSAの課題解決パターン

④何が分かっていないか

- 「『数学は解くものだ』と質問に来ても本当に分かっていない部分は別にある。そこを見抜くのに20～30分かかる。ヤマを張って質問していく。『例題を解いてみようか』『定義に戻ってみようか』。こちらでは解かずに、話して行って互いに納得すると、一つやれば数問答えたことと同じになる」
- 「教科書・ノートを持参してほしい。授業でどういう風に習ったかを知りたい。その方が、質問者が納得するように教えられる」

学生への効果

- 本を紹介したら次までに読んできた
- まず自分で全部解いて、ここはこの考え方で良いのかと確認に来るようになった
- 「何回も来る相談者は、『ここまで分かりました』と言ってくるようになった。『どこまで分かっているの?』ということをいつも聞くので、『ここまで分かったけどここから分かりません』と質問をまとめてくるようになった」

支援者側の成長

- 相談対応における課題解決パターン
 - ① ディスカッションや演習で確認
 - ② 相談内容と担当者のマッチング
 - ③ 一緒に思考、互いに納得
- 相談者の知的背景と学問分野内／間の「知の構造」とのマッチング（授業や教材への関心、学習支援システム改善、プレFD）
- 「専門分野」を広い文脈に置き直す
- 対応法は試行錯誤・共有・ディスカッション

学習支援を可能にする条件

- 学生をつまづき⇒自らの知識の蓄積過程を専門知の全体像の中でたどり直し、理解の水準の移動を見極める作業(学生が自分の知識を専門知の体系に沿って階層化・整理することを支援する)・・・なぜ可能か？
- ALSA(学習者であり研究者でもある)と学生の共通の目的=唯一の基盤は専門知識の内容
- 運営者側の条件: 専門知とはどのようなものか(学びには中身があること)を理解できること

授業との連携（失敗事例）

- グローバル／ソーシャルラーニング系科目の事後必修レポート⇒「ALSAにみてもらうこと」を義務化（名前を聞く）⇒締め切り直前の「殺到」
- レポート自体にも「みてもらうこと」にも、特に目的なし（学生も、教員も）⇒ただの「アウトソーシング」？「レポート」ってそんなのでもいいの？ By ALSA
- 「大学院生（ALSA）が使えないせいで、学生のレポートがだめだめで・・・」※担当教員オフレコ発言
⇒授業／支援の連携ですべてうまくいくのではない
(アクティブラーニングは、「方法」に飛びつく教員・授業の中身の質の問題をも解決するものではない・・・か？⇒学習支援にもできることがあるかどうかは、未確認)

レポート作成セミナーとその改善

プレゼンセミナー

準備から口頭発表まで

ALSA-LS
大学院生による

なぜプレゼンが大切なのかということから分かりやすく解説するので、準備から口頭発表までの技術を納得しながら身につけられます。

レポート作成セミナー〈基礎編〉

分かりやすい文章に必要な10のこと

他者が読むことを前提とした文章を書く際に気を付けなければならないことをチェックリストにしました。「書く」力を基礎から底上げしましょう。

レポート作成セミナー〈作成編〉

レポートを書ける人になりたい！

レポート・論文を書くとはどういうことか、必ず気を付けなければならないことは何かを含め、準備から完成までの具体的な執筆手順に沿って解説します。

会場：図書館本館N棟1階プレゼンテーションスペース

	5/23 (月)	5/25 (水)	5/26 (木)	5/27 (金)
12:10 ~12:40		作成編は各回同内容です		レポート 〈作成編〉
14:30 ~15:30			レポート 〈作成編〉	プレゼン セミナー
16:10 ~17:40	レポート 〈基礎編〉 ・ 〈作成編〉	レポート 〈作成編〉 ※17:10まで		

セミナーの内容改善

ALSA自身(相互)によるモニター⇒議論⇒改善⇒実施

とにかく、書き方や
どうやって書き始め
ればいいのかだけを
知りたい

剽窃や丸写しがいけない
ということを知ってほしい
ちゃんと勉強して書いて
ほしい



- 必要なことを「手順」に落とし込んで説明
- 必ず実例を使って説明する
- …などの改善



※お申し込みは不要です。どなたでもご自由にご参加ください※

1210あかりんアワー **11/18**

附属図書館N棟1階

プレゼンテーションスペース **(金)**

12:10-12:40



大学院生だから教えられる、
書くまでに知っておきたいこと。

ALSAカフェ 第21回



プレゼンター：
藤田貴士さん
(人文社会科学研究院院生
/ALSA-LS)

**卒論(年度末課題)に
向けて
今からできること**

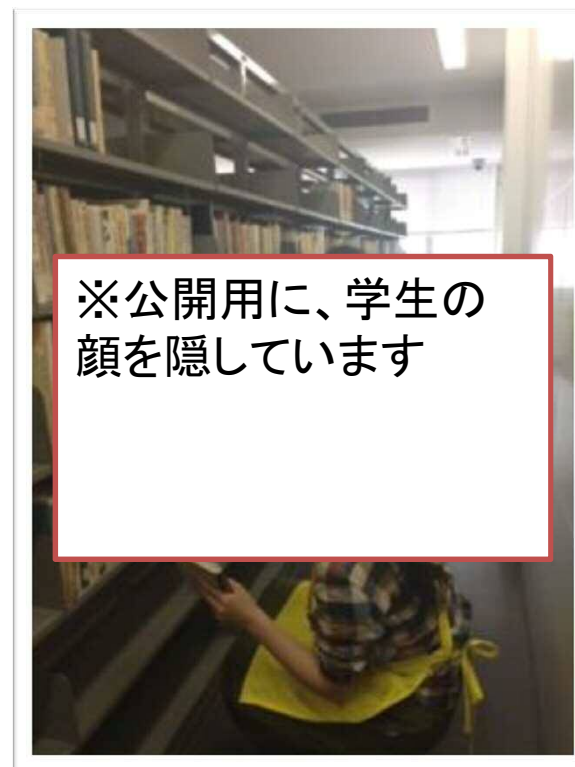
学習環境整備への学生の参加

Academic Link Student Assistant - General Support

ALSA-GS : 学生支援担当SA

目的

- よりよい学習環境の構築と学習支援の実施に学習者の立場から参加する
- ALSA-GS自身が大学における自分の学習を充実したものにする



ALSA-TTによる技術支援

- Academic Link Student Assistant - Technical Team
ALSA-TT : 技術支援担当SA



授業／授業紹介動画の
収録・編集



技術支援
(端末整備, 教材開発支援など)

ご清聴ありがとうございました。

案内
Information

<http://alc.chiba-u.jp>

©Yukiko Sawabe